



# Fグループ会報

## 会長挨拶

会長 大島君子（3回）

近頃、同窓会のお仕事の中で、或いは他の場で、Fグループの方々にお会いする機会に恵まれています。音楽を職業にしていらっしゃる方、趣味にしていらっしゃる方、それぞれに音楽を愛して生き生きとなさっているのは嬉しいことです。フェリス時代私達は、一人一人それなりの在り方のよく考えられた、きめ細かい指導を受けました。少數教育であることは勿論ですがもっと精神的なもの、小さな存在を大切に考えるフェリスの伝統によるものと思います。様々な事柄の結婚する雑多な暮らしの中で、私達はこうして培われた在り方で音楽と言う不変的な世界を持ち続けられるのは、大きな喜びです。いつか、あの曲をもっとよい音で演奏したいと言う夢を追う幸運、或いは聴き手としてより深い理解が出来るようになる幸運を大切にしたいと思うのです。その為にも同窓会が何かのお役に立てばと願っています。どうぞ何なりとお申し越し下さい。皆様と御一緒に明日も元気に過して参りましょう。

## “Fグループの総会に出席して”

音楽学部長 声楽学科教授 芳野靖夫



学部長がかわったという事で、この春以来三つのフェリス女学院大学音楽学部同窓会の総会に招かれ、出席した。即ち5月に名古屋での中部支部、6月に横浜の本部と福岡での西南支部の総会の三つである。聞くところによると、Fグループの支部は名古屋と福岡の二ヶ所にしかなく、横浜の本部と合わせて三つだけだという。この三つでは全国を区分けし、カバーしているとのこと。因に最近卒業生の多くなって来た四国地区はどこに属し

ているのか聞いてみると、あそこはどこにも属していないという。私は四国出身なのでショックを受けてしまった。

ショックといえばこの三つの総会に出席して、ショッキングなことが沢山あった。共通した点は、今の音楽学部、即ち母校と卒業生との結びつきの度合いの薄さであった。ある所では、短大がなくなり音楽学部と文学部の二つの学部からなる大学になったという事も知らず、又ある所では、今の音楽学部はレベルが高くなってしまい、なかなか入れないとか、又その逆にレベルも教育内容も落ちてしまつて、みんな大学に誰も入れたくないとか、様々な話を聞いた。私は悲しくなってしまった。この20年程の間、私の所へ来た受験生の中には、フェリス出身の先生からの生徒は唯の一人も居なかった証が、今解けた思いがして悲しくなった。

私は受験生の男はまず豊大を、女の子はフェリスを受けさせている。フェリスが学生にとって一番いい学校であると信じているからであり、自分にとても優れた学生を教えられるということは働きがいのある事だし、フェリス女学院で教えたという事を一生の誇りに思える学校にしたいからである。フェリスで教えた全ての先生がフェリスを誇りに思い、全ての卒業生が自分の母校に誇りを持てる大学にしたいからなのだ。

今音楽学部は確かに動いている。何かに向って全教官が一つになって動いているのを感じる。学生達もやる気でいる。本気で上手くなりたいという熱気を感じる。先生の方もどうやったら上手くしてやれるか、どうすればこの大学のレベルを上げることが出来るかを真剣に考えている。そしてこのフェリスをいい大学にしようという意志が大きな流れとなって、全教官、全学生を一つの方向に動かしている。この今の音楽学部の現状がメッセージとなって同窓会の方へ届いていないと言う現実にぶつかって、私は悲しくなったのだが、多くの話を聞いているうちに、ネガティヴな意見から或る共通したものを感じとり、私の気持も確信と喜びへと変わって行ったのだ。即ち、私にぶつけられた様々な話の裏に、母校に対する並々ならぬ誇りと愛情を感じとったからなのだ。

三つのFグループの総会に出席して沢山のこと学んだ。大学と同窓会とのコミュニケーションの不足。この原因は多分に大学の側にあった事。そしてこのコミュニケーションの役も私の仕事の一つである事を学んだ。そしてフェリスに学んだ者はみな、人格的にも実力的にも優れた女性であると言われるような音楽学部にしたいと思っている。



る為、途中でご退場なさいました。引き続き、三宅春恵先生よりご挨拶を頂き、4年前の脳の手術から厳しいリハビリを経てすっかりお元気になられたお姿を拝見出来、「楽しく生きる」と仰る先生のお話は、しみじみと胸に染み入るものでした。横浜文化賞を受賞なさった事は大変お喜びで、これからは横浜の為に尽くしたいと仰られました。又、今回は懐かしい倉長先生、萩原先生、花鳥先生もご出席下さいました事も、厚く御礼申し上げます。

ご都合が悪く残念ながらご欠席の先生方からは、心誠

No.22  
フェリス女子学院大学  
音楽学部同窓会  
Fグループ

## ▷ 選挙管理委員会発足 ◇

来年の同窓会長改選に向け、今回会則細則の施行に伴い初めて選挙管理委員会が設立されました。4月10日の学年幹事会に於て選出されました委員を御紹介致します。尚、会長他役員の選出方法につきましては、昨年皆様に会則、細則としてお届け致しましたが、下記に再記致しましたので、御一読下さい。

### 選挙管理委員

河野 順子（10回） 小野 和子（19回）  
西山 陽子（38回） 金井 康子（38回）  
鏡治 優子（42回） 黒川 真美（42回）

### フェリス女学院大学音楽学部同窓会会則

#### 第7章 役員、会計監査および役員会

- 第13条 1. 会長、副会長および会計監査は、学年幹事会において、正会員の中から選出される。  
2. 書記および会計は、会長が副会長と協議して選任する。  
3. 常任委員、執行委員および会報委員は、役員会が推举し、学年理事会の承認を得る。

### フェリス女学院大学音楽学部同窓会細則

#### 4. 会長・副会長・会計監査の選出

会則第13条に基づき、以下の細則によって選出する。なお、そのための選挙管理委員会を設ける。

##### 4. 1 選出方法

- (1) 改選の年の学年幹事会において、会長1名、副会長2名、会計監査2名を選舉により選出する。  
(2) 候補者は、すべての正会員の中から、自薦・他薦のいずれかによる立候補を原則とし、他薦の場合は会員5名以上の推薦を必要とする。  
(3) 投票は、選挙管理委員会の管理の下に、学年幹事会の構成員による無記名投票によって行い、単純多数による上位から当選とする。ただし、最上位得票者が複数となったときは、決選投票を行なう。  
(4) 対立候補がない場合は、信任投票を行い、過半数の得票をもって当選とする。

##### 4. 2 選挙管理委員会

- (1) 役員改正前年度の学年幹事会において、役員を除く学年幹事の中から、5~8名の委員を選出する。  
(2) 委員会は、投票日の1ヶ月前までに、各候補者の承認を得た上で、すべての候補者の氏名・略歴を学年幹事に公示する。  
(3) 選挙管理委員が候補者となつたときは、速やかにその役を退くこととする。  
(4) 委員会は、投票当日に立会人数名を指名する。  
(5) 委員会は、公示から選挙終了までの選挙に関する一切を、公正に管理する。  
(6) 選挙管理委員長は、会長・副会長・会計監査への立候補の資格をもたない。

まるメッセージを頂戴致しました。最後に、出席者全員で懐しい校歌を合唱し、2時間半の総会も、短大音楽科が大学音楽学部になって初めての卒業生をFグループにお迎えする事が出来今回出席下さった皆様も含め大勢の出席者のお陰をもちまして、楽しく賑やかに終える事が出来ました。フェリスは昔も今も、先生方と生徒の暖かい交流を大切にする校風は不变であるという確信を得て、大盛会の内に閉会となりました。



## 「お嬢様」を越えて

鏡治 優子 (42回)

短大の音楽科から大学の音楽学部になって初めて入学することになり、第一期生という響きに少々誇らしさを感じてフェリスの門をくぐってから、あっという間に4年の月日が流れてしまいました。時間の流れは瞬く間ではありました。フェリスで学んだ4年間は、私に貴重な経験と、思わず笑みがこぼれてしまうほどの、沢山のよき思い出を与えてくれました。

私が学んだ楽理学科は、他大学にある楽理科とは全く違って、非常にユニークなカリキュラムでした。というものも、ただひたすら楽曲分析を行ったり、楽書講読をするだけでなく、自分で曲を書き、年に一回発表することを課せられたのです。いくつも音楽を聴いたり演奏することが好きであっても、音楽を創造していくことは全く別の話であり、作曲することを大の苦手としていた私にとって、ペンを握って五線譜に向かうことは億劫になりました。しかし先生方が私に懲りず御指導して下さった結果、その作品の作曲者となることが出来ました。

そして、その作品を自分の演奏で発表した時、今までにない嬉しさを感じたことを、今でも忘れられません。

さらに、このような大きな意味のある貴重な体験をさせて下さった先生方は、夏休みに先生の別荘に招いて下さり、夜を撤して大騒ぎする私達におつきあい下さったり、スキーテachingをして頂いたり、また、お電話で何時にも卒論の御指導をして頂いたりと、大学という枠を越えて私達を見守って下さいましたことは、感謝の気持ちに耐えません。

そして、この4年間の思い出に華を添えてくれたのは個性派揃いの友人達でした。田舎育ちの私にとって、フェリスの友人達は輝いて見え、常に磨きをかけてくれたと思います。

こうして、私のフェリスでの4年間は、先生方と友人に支えられ、沢山の収穫が得られました。その収穫の中で、何よりも大きいものは、フェリス生はただのお嬢様ではなかったと知ったことでした。どう考えてもお嬢様ではない私がお嬢様学校と呼ばれるフェリスに入学することは、少々抵抗がありました。社会に出て、男性と肩を並べて活躍していらっしゃる先輩方が沢山おり、大いに勧されました。私はまだ大学院で勉強を続いている学生の身ではありますが、先輩方を見習って、単なるお嬢様と呼ばれないよう自分に磨きをかけて行きたいと思います。

## 海外だより

### ルツェルンの教会音楽

上野 雄 (29回)

ルツェルンに住むようになってもう10年近くになる。日本を旅立った時には、こんなに滞在が長くなるとは夢にも思わなかった。ルツェルンといえば、夏の国際音楽祭がある事で有名だが、音楽の盛んな町とはあまり言えず、夏の間を除くと、良い音楽会は稀にしか聞かれない。音楽学校といえば、コンセルヴォアールと、教会・教育音楽の為のアカデミー (Akademie für schul- und kirchenmusik) があり、共に創立50年という浅い歴史である。私はそのアカデミーで教会音楽を学んだ。

元はカトリック教会音楽学校として発足したので、授業内容もカトリック典礼に従ったものである。現在、アカデミーの三番目の学長は、イエズィテン (Jesuiten) 教会の音楽監督でもあり、アカデミーの活動が、この教会でも生かされている。特に合唱が重視され、モントヴェルディからオネガーに至るまで広いレパートリーを持ち、宗教音楽コンサート、ミサ等で歌っている。国際音楽祭にも毎年参加するようになった。

イエズィテン教会には、10年前にこの楽長によって創設されたオーケストラとコーラスがあり、私はそのオーケストラでコンティヌオを弾いている。二流位のオーケ

## 〈中部支部〉

牛込まり (25回)

今年も例年通り、三月には松坂屋ホールをお借りして、Fグループジュニアコンサートを開きました。春休みの一日、側から同窓生の生徒さん達が、日頃の練習の成果を出し合いました。ホール側も好意的で、なかなかよいコンサートでした。若い同窓生の皆さんも、裏方に回ったり演奏に回ったりで大活躍でした。やはり、若い同窓生がたくさん日頃の活動に加わって下さる事が、これからFグループには大切な事であるとつくづく思いました。

今年度の中部支部の役員をお知らせ致します。

支部長 塚沢 誠子 (14回)

副支部長 齋藤 幸子 (20回) 牛込 まり (25回)

伴野さち子 (21回) 金久保珠美子 (22回)

都築 典子 (23回) 大庭千恵美 (25回)

壁谷 基子 (36回) 田村 亜弓 (36回)

狭間 和子 (37回)

どうぞよろしくお願ひ致します。

5月23日には、名鉄グランドホテルにて中部支部の同窓会を開きました。芳野靖夫先生、三宅洋一郎先生、同窓会役員の齊藤さんが快く来て下さって、会を盛り上げて下さいました。なかなか参加して下らる方が集まらず役員の方もやきもきしたのですが、最終的にはちょうど良いぐらいの人数で、楽しい一時を持つ事ができました。しかし、同窓会のメンバーが、たとえお友達が御一緒でなくとも、Fグループの同窓会なんだからと、気軽に、又一つの連帯意識を持って、ドッと来て下さったと反省しております。まだまだ、Fグループのつながりは、他校に比べると少ないかもしれません。若い方達にもどんどん役員をやって頂いて、エネルギーを吸収していかたいものです。

6月6日のFグループの総会にも参加させて頂きました。盛会で、たくさんの先生方の楽しいお話を聞きする事ができ、又久々の校歌に胸が熱くなりました。春恵先生の『物事は良い方に考える』とおっしゃった事がとても印象的で、これからは、それで生きていきたいと、今のところ思っております。

“中部支部は活動がさかんですね。”と言われ、これも支部長を始め、皆さんの努力だと感謝しております。

10月には、新人演奏会を予定しております。フェリスも大学となって、ますますレベルが上がってくるでしょう。フェリスは、卒業してもやはりいつながりがあるなア。と思えるようなFグループにしていきたいと思っております。

ストラかもしぬないが、若い音楽家達の中には優れた演奏家も多く、バロックを中心にモンテヴェルディ、バッハ、ヘンデル、モーツアルト得意としている。特にアーティキュレーションの打ち合わせは緻密で、繊細な生き生きとした音楽をする事に心掛けている。私は学ばざれる事が多い。

1991年に、モーツアルトの没後200年を記念して、ルツェルンにモーツアルト協会が発足した。その年は、一年間を通してモーツアルトの教会音楽が全曲演奏され、その時ばかりはイエズィテンの会堂がいつも満杯で、一時間半の礼拝の間中、立ち通しの人が多くいたのは喜ばしい現象であった。以後、モーツアルトの生誕日1月27日を前後に毎年Mozart-Tageが催され、礼拝はやはりいつも満杯の人である。会衆が本当に礼拝に参加しなくて集まるのか、あるいは無料音楽会を開きに来るのか、大きな疑問ではあるが、これをきっかけに、今後の活動がモーツアルトにかぎらず、教会音楽の存在を新たに変えていく道が開かれる事を祈っている。

古典音楽やグレゴリオ聖歌を復活させる努力もされ、シャイト、シャイデマン、フレスコバルディといった優れたオルガン作曲家の作品が当時実践されたように、スコラとオルガンが交互に演奏され、ラテン語の訳も加えて、会衆にこれらの音楽が馴染まるよう試みられている。現代作品の中には、グレゴリオ聖歌やドイツ作曲家のモティーフを使って、新しい響き、新しい作曲技法が工夫されたものもあり、興味深い。

礼拝準備をする度に思う事は、私達音楽家が、作曲家

## 〈西南支部〉

村上京子 (24回)

今年の西南支部同窓会は、去る6月27日㈰に催されました。大雨注意報の続々毎日でしたが、幸いな事に、同窓会当日はお天気にもめぐまれ、当番幹事の24回生一同はっと胸をなでおろしました。

今回は、新学部長になられました、芳野靖夫先生をはじめ、同窓会会長の大島君子先生、福岡に毎月レッスンに見えていらっしゃる三宅春恵先生をお迎えしての、盛大な会となりました。

芳野先生は、24回生入学時にフェリスにいらっしゃったという縁もあり、思い出話しに花が咲き、イタリア料理を囲んでの会場は、先生方のお話をうかがいながら、時折明るい笑いに包まれる楽しいひとときとなりました。

芳野先生のパワーあふれるエネルギーお話を、新しく変わゆく大学の様子に、一同安堵と共に、将来へ大きく発展していく大学の姿を思いながら事が出来ました。長年、たゆまざる努力と御指導で私達を育てて下さった諸先生方のお顔を思い出します時、フェリスに学んだ意義を、改めて感じずにはいられません。

それから、この様な変革期にあって、大学の発展を陰ながらしっかり支えていらっしゃる同窓会本部のお話を大島君子先生にうかがい、役員の皆様方の御苦勞に一同感謝の気持ちでいっぱいでした。

お帰りの際、先生方から、大学も同窓会もしっかりバックアップするので、ぜひ、西南支部主催のFグループ演奏会を実現出来る様に、とのお言葉がありました。

同窓生一同、協力し合い、充実した演奏会を開く事が出来ます様、心新たに努力していく所存でございます。

西南支部役員が改選されましたので御知らせいたします。

会長 田村 旗子 (8回)

会計 佐竹 悠子 (11回)

書記 牛島 悅子 (19回)

幹事 江口 玲子 (14回)

伊藤 和子 (24回)

三好 晶子 (32回)

小野 真子 (33回)

安達 桃子 (37回)

の意図を汲み取って、その作品を正しく再現しているかどうか、その音楽が本当に信者の共同の祈りと歌になっているのかと反省させられる。ルターが当時のカトリック教会の腐敗を指摘して改革を行ったように、現在の改革派教会、カトリック教会の停滞を新たに改革できる人物が現われて欲しいと、ふと思う事があるこの頃である。

最後に、スイス神学者のバートが、モーツアルトへの告白に記している文で締めくくりたい。「見事な音楽というものは、おきなごのように万物の中核を知りつくしていなくては生まれてこないものだ。始源と終末とを一挙に知りつくさねばならぬからである。私はモーツアルトがこの中核から躍り出し、始めと終わりとから発して音楽を奏でるのを聽く。」(新教出版社より 小塙篠記)



イエズィテン教会

## 音楽学部の先生方

## &lt;声楽学科&gt;

教 授	朝倉蒼生	(入試副部長)
辻 真子		
芳野清大	(音楽学部長)	
渡邊 明	(声楽学科主任)	
専任講師	藏田雅之	
助手	藤田直子	
非常勤講師	江口元子 大村明子 小栗純一 片野坂栄子 加納悟郎 工藤 博 桑原妙子 佐藤ひさら 鈴木寛一 立木樹子 田中奈美子 田中 賢 花島雅子 林 廣子 吉川博子	

## &lt;楽理学科&gt;

教 授	岡島雅興	(楽理学科主任)
助 教 授	松本日之春	
専任講師	秋岡 陽	立神粧子
助手	田中 圭	
非常勤講師	荒川恒子 加藤修子 久保田牧子 小泉ひろし 鷹田治子 横井笙子 為本章子 土田英介 寺本まり子 中内詢子 原 恵 水野 勉 村井靖児 山田武彦	

## &lt;非常勤副手&gt;

講 座 副 手	浅井寛子 飯村育代 小野美乃里 鍋治倫子 金井康子 北澤美紀 小山さと美 佐藤理菜 瀬戸山 恵 長尾明子 西山陽子 本村みどり 教務副手 黒川真美 小濱美穂 財前章子 水里佳子 山本さつき
ウェーニング教室 センター副手	鶴巣世姫子



## 同窓会連絡会

今年で5回目を迎える同窓会連絡会主催のクリスマス礼拝は、りてら、りべるて、白百合会、Fグループというフェリスの各同窓会が、心を一つにして行われる恒例の行事となり、定着してきたように思われます。

今回は、Fグループのお当番の年でもあり、増えた勢の方に出席していただきたいと思います。皆様お誘い合わせの上、厳かなクリスマスの雰囲気を味わってごらんになってはいかがでしょうか。

フェリス女学院同窓会クリスマス礼拝

日 時 12月11日(土) 午後1時30分～3時

会 場 カイバー記念講堂

説教者 佐竹 明先生

○ ○ ○

連絡会 会務報告 (1992.6.1.～1993.5.31)

第21回 連絡会 1992年10月15日

(クリスマス礼拝について)

第22回 連絡会 1993年4月22日

(クリスマス礼拝について)

連絡会 会計報告 (1992.6.1.～1993.5.31)

収 入	前年度繰越金	396,542円
	各セクションより	200,000円
利 息		2,113円
合 計		598,655円
支 出	各支部へ祝儀	30,844円
	クリスマス礼拝諸経費	72,793円
	会議費	2,576円
		106,213円
	来年度繰越金	492,442円
他に共有財産として		
三菱信託銀行に、貸付信託に	1,500,000円	
金銭信託に	111,051円	
計	1,611,051円	

## Fグループ 1992年度収支報告書

(1992.4.20現在)

取 入	支 出
現会員費	165,000
ショット・コンサート開催費	316,000
研修会受講料	20,500
名簿代金	655,230
「山手の丘に音楽誕生」売上	25,200
冠名シール	22,300
銀行利息	365,320
前年度繰越金	6,365,453
総収入	7,853,313
總支出	2,964,592
次年度繰越金	888,721
上記繰越金は短大時代のもので、4年制になってからの終身会費が現在12,441,523円あります。今回はこれを繰越金として来年度平常経費に繰入れます。	

## 役員紹介

会長	大島 君子 (3回)
副会長	熊本美也子 (17回) 永川 恵子 (25回)
書記	江原 郁子 (8回) 東海林裕子 (20回)
会計	齊藤 令子 (11回) 藤村 公子 (11回)
執行委員	今井久美子 (27回) 川添久美子 (34回)
	永里 佳子 (34回)
会報委員	上月 早苗 (23回) 田中 薫 (25回)
常任委員	石井 朝美 (37回) 長尾 明子 (37回)
	西 葉子 (15回) 吉川 幸子 (15回)
会計監査	中島 基子 (9回) 熊取谷寿子 (16回)

## —「Fグループ研修会」—

93. 7月17日(土) フェリスホール

テーマ ピアノと私

作曲家の羽田健太郎さんをお迎えして、楽しいお話を伺いました。(3面に関連記事)

尚、当日、会場で皆様にお願い致しました。北海道南西沖地震への寄付につきましては、お陰をもちまして、37,936円となりました。この金額は、フェリス女学院大学音楽学部同窓会長・大島君子名で、日本赤十字社北海道支部宛に送らせていただきました。

皆様のご好意に厚く感謝申し上げます。

93. 10月1日(金) 5号館541教室 10:00～12:00

テーマ コラール「衆讃歌」をめぐって

今年3月を以ってフェリスを去られた田中順先生よりお話を伺います。

会費 無料

主催 フェリス同窓会連絡会

—「Fグループジョイントリサイタル」  
のお知らせ—

93. 11月12日(金) フェリスホール

岡部ゆかり v. (30回)

片野 敦子 pf. (34回)

内田 恵子 pf. (42回)

Fグループでは、下記の要領でジョイントリサイタルの出演者を募集致しております。出演を希望される方は、申し込み用紙をお送り致しますので、下記執行委員会にご請求下さい。

尚、出演者は、Fグループ会員で、先生の推薦のある方に限ります。又、希望者の多い場合は、書類選考とさせて頂きますので、何卒御了承下さいます様お願い申し上げます。

## —「Fグループ後援演奏会」—

92. 9月15日(土) amies 第7回コンサート

大田ゆかり (32回) 太田 裕代 (32回)

新田 知子 (〃) 藤谷 敦子 (〃)

田村 郁子 (〃) 川辺 智子 (32回)

安藤 江浪 (〃) 川辺 晶子 (30回)

斎藤三恵子 (32回)

92. 11月24日(日) 江口元子リサイタル

93. 5月15日(土) 小林周子ピアノリサイタル

93. 6月15日(日) 大庭照子リサイタル

後援のお申込みは、2ヶ月前迄に申請書に記入し、役員会にご提出願います。申請書は執行委員会にご請求下さい。

執行委員／今井久美子 (27回)

川添久美子 (34回)

## ○○○ 編集後記 ○○○

Fグループ会報の発行が9月初旬になる為、毎年楽しむはずの夏休みは、宿題をかかえた子供達と同じで、心の中に晴れ晴れとしないものをかかえて過ごします。それでも、会報のお仕事をさせていただいて驚かされるのは、フェリスという音楽の場を与えられたという条件は同じなのに、その後の努力、またチャンスを生かし、本当に素晴らしい活躍をされていらっしゃる同窓生が多いという事です。

Fグループ会報では、もっともっと大勢の同窓生を皆様に紹介したいと思います。どうぞ、いろいろな情報をお寄せ下さい。

会報委員 上月 早苗 (23回)

田中 薫 (25回)